かりや景観れぽーと

2024.Mar

Kariya Landscape Report Vol. 31

Kariya Landscape Report

「産業文化都市かりや」を景観から読み解く

刈谷市は、大正時代末期から一大工業都市として発展してきました。そこから、まちの発展の基盤となる産業と、誰もがゆたかに、いきいきと生活できるよう教育、文化活動の充実を目指したまちづくりをしています。

第８次刈谷市総合計画では、将来都市像を「人が輝く安心快適な産業文化都市」としています。今回は「産業文化都市」とはどのような都市なのか、景観の面から読み解いていきます。

景観とは

建物や自然などの眺めであり、目だけでなく五感を通して感じられることや、これらによって呼び起こされる心象風景も含めた、私たちがその場から感じ取るものの全体像です。

まちには長い年月を経て、地形、歴史、土地利用、暮らしなどが培われてきていて、これらの要素が組み合わさってその地域固有の景観をかたちづくっています。これらひとつひとつの要素をひも解きながら、その地域らしい景観を再発見していきましょう。

「産業都市」刈谷の物語

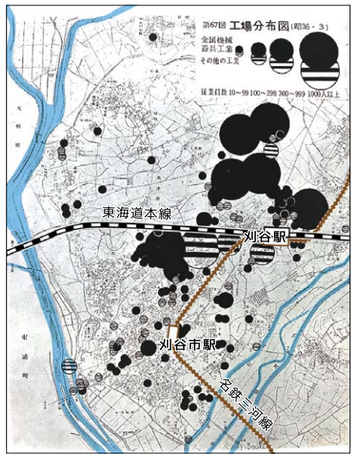
■産業の「発展」

紡織産業が刈谷にやってきたのは、大正12年のこと。10万坪の土地に豊田紡織株式会社の刈谷試験工場がつくられたのが始まりです。その後、相次いで工場が建設され、一大工業都市となりました。

刈谷試験工場は、豊田自動織機製作所となり、国産自動車の開発も行われ、その結果、自動車関連産業の集積地となっていきました。

豊田町付近（昭和30年代）

現在のデンソー付近（昭和30年代）



工場分布図（昭和36年）市勢要覧

戦後には、刈谷駅の北側と南側のそれぞれに、1,000人以上が働く大規模な工場が建ち並びました

豊田紡織株式会社が、当時刈谷町に工場を建設したのは、「きわめて偶然」のことでした。

刈谷駅にて東に向かう列車を待っていた豊田の社員は、そこに居合わせた人と偶然工場建設のための土地を探している話になり、刈谷に工場を建設することの利便性を説かれ、内密に町内各地を見て回りました。

十万坪の土地を確保するのは簡単ではなく、刈谷実業同志会（商工会の前身）、議員、町長など様々な人が関わり、少しずつ地主の理解を得て、ようやく買収を完了したのです。ほどなくして、「工場の新設の槌の音が勇ましく響き渡った」と言います。

歴史未来館（トヨタ紡織内）

参考図書　刈谷が市になる迄の発展史（S34発行）著者：大野一造

■街が産業とともに「成長する」

産業が成長するとともに、街が整備され都市としても発展していきました。刈谷駅の南北では、駅前広場などが土地区画整理事業により整備されました。現在は、再開発事業による再整備が行われ、駅前の景観も大きく変化しています。

刈谷駅北口の風景の変化

昭和29年土地区画整理事業後

現在

Column　コラム

刈谷のシビックプライドと産業

市内の小中学校の校歌歌詞

「♪ 見よ 近代の工業の 栄ゆくところ ここ刈谷」（刈谷南中学校）

「♪ 世紀を照らす工業の 使命も雄々しこの街に」（刈谷東中学校）

「♪ 進む産業 立つけむり」（小高原小学校）

産業都市として発展してきた刈谷では、工場が建ち並ぶ眺めが昔からのシンボルでした。

その力強さは、市内の小・中学校の校歌に、あらわれています。

まさに、市民の誇りの核となっていると言えるでしょう。

発行：刈谷市まちづくり推進課　TEL：（0566）62-1022　発行日：令和６年３月１日

「産業×文化」
4つの景観

刈谷市の中心部には、
自動車関連企業が集積し、産業エリアを形成しています。

Four landscapes

まち並み をつくる産業

スタイリッシュな壁面デザインや空を映すガラス、魅力的なエントランス空間。そこに単に「工場がある」ということを超えて、おしゃれなまち並みをつくりだしています。

その一方でノコギリ屋根の工場や「安全第一」の文字など、「ものづくり」の場なのだと思い起こさせてくれます。

すっきりした外観デザイン

赤い会社のロゴが印象的

曲線をつかったエントランスデザイン

空を映し出すガラス

安全第一の文字

壁面緑化

ガラス張りの軽やかなデザイン

開放感のある透明な庇（ひさし）

公共空間を豊かにする産業

まちの中でも多くの面積を占めている企業は、自社の敷地のみでなく、道路に面した部分をしっかりと緑化しており、周辺の景観に大きな影響を与えています。

市が整備している街路樹や、公園の緑と相まって、文字通り「緑いっぱい」の街角をつくっているのです。

交差点に向かって、誰でも通行できるオープンスペースを開放
豊かな緑はまちかどのシンボル（神明町交差点）

企業の緑地（左側）と街路樹（右側）が
一緒になって「緑のトンネル」のよう（八軒町交差点）

企業の緑が、街路樹の緑とともに潤いのある道路景観をつくる（豊田自動織機西側）

亀城公園から「借景」できる、厚みのある緑
（豊田自動織機情報技術研究所e-Lab内）

豊かな緑から垣間見える、本社ビル（左：アイシン、右：デンソー）

働く場 としての産業

刈谷駅周辺の通勤時間帯はオフィスや工場で働く人たちで、行列ができるほど。その風景は、今も昔も変わらないのです。ずっと昔から、たくさんの人が働いています。

近くには、ランチ時に働く人たちの行列ができる店もあります。

産業エリアで働く人（現在）

産業エリアで働く人（昭和30年代の国鉄刈谷駅前）

産業エリアに近い中華店は、働く人でにぎわう

まち・ひとを育てる産業

刈谷市が大切にしている「ものづくり」に親しめるような環境づくりには、各企業の協力が欠かせないものとなっています。こうした取組により、他の地域にはない「ものづくりのまち刈谷」の風土がつくられています。

生活創意工夫展（小中学生の発明作品の展示会）
へのブース出展

夢と学びの科学体験館のプラネタリウム
リニューアルへの支援

市民に開放されたデンソー夢卵2022